

最高の歯科治療とホスピタリティを提供

あおいデンタルクリニック 麻布十番ペリオ・インプラントセンター

5年後、10年後も患者さんから「ありがとう」と言われるような診療を目指している。スタッフ一人ひとりが患者の立場になって考えること。ホスピタリティを忘れずに行動すれば、理想の歯科医療は実現する。

Photo Satoru Naitoh Text Mayumi Sakamoto



東京・麻布十番にある「あおいデンタルクリニック」。院長の青井良太氏が笑顔で迎えると、安心感に包まれる。このクリニックに漂うリラックスした雰囲気は、青井氏の人柄から醸し出されるのかもしれない。インプラント治療に実績があり、各専門分野のエキスパートを集結させ、連携をとりながら、青井氏がすべてをハンドリング。クリニックでの診療の傍ら、講演会や勉強会も行い、数々の著書も手がける歯科医療のエキスパートである。

気持ちだけでは貢献できない。青井氏が歯科医師になって1年目の冬に阪神・淡路大震災に遭遇。「戦争の後のような悲惨な状況の中で、自分にながでできるかを必死に考えました。自分ができることは歯科治療しかないと思い、まだ若く経験も浅かったのですが、避難所を中心に往診を始めました」。多くの医療ボランティアがそうであるように、誰かの役に立ちたいという一心だったが、同時に技術不足を痛感させられた。気持ちだけでは治すことできないと身をもって実感する。

その経験から一念発起、日本でもトップクラスの中村公雄氏、小野善弘氏に師事し、7年ほど修業した。コンセプトに基づいた知識と技術の習得を目指し、長期的な歯科医療を身につける傍ら、中村氏が代表を務める歯科医師の卒後研修団体であるJ・A・D・Sのコース（インプラント・歯周病・歯内療法）の講師をして研鑽を積んだ。

カウンセリングスペース。コンピュータで写真を提示しながら、治療計画を話す。

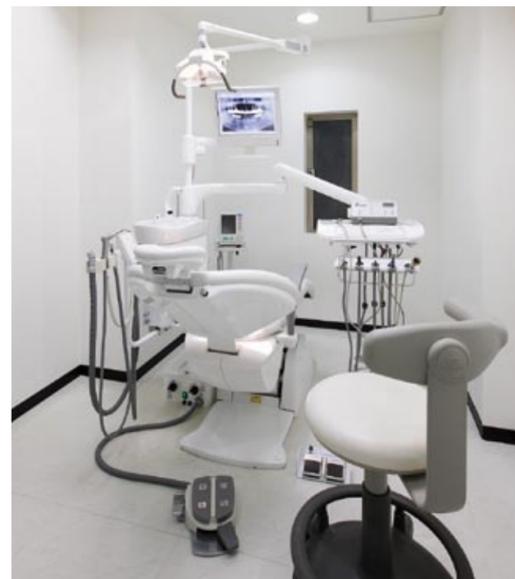
30代の時、歯科医師を対象にした外科治療の基本コース（Surgeon Basic Course：SBC）を立ち上げている。歯科医療にも新しい仕組みづくりが必要と考え、歯科医療に従事するすべての人たちに門戸を開いたのだ。「今まで歯科衛生士さんや助手の方が歯科医師と共に学ぶ場所がなかったんですね。理想的な歯科治療を追求していくと、スタッフ全員が一丸となって取り組むチームが必要です。豚を使った縫合の講習も、医師だけでなく、他のスタッフにも実際に行っていたいです」

とは異なり、自然の歯のような機能や外見を得られること。「歯が抜けたから、インプラントを入れましょう、というのではなく、ひとつの口腔単位で考えていきます。なぜ歯が抜けてしまったのか、その原因を探り、インプラント治療が可能な状態になるまで改善していきます」。インプラントでは内科医と連携し、患者の健康状態を管理しながら、安全を確保する。

患者への心配りや声かけも大切だと青井氏は強調する。リラックスして診察を受けられる環境づくりを心がけ、治療への不安や心配はとことん話し合っ、取り除くようにしている。診察や治療に1時間以上をとるのは当たり前、ひとりの患者に半日かけることもある。効率は度外視、これもホスピタリティの表れだろう。「患者さんとは、一生のおつき



あおいデンタルクリニック院長 青井良太氏。



独立したオペ室では滅菌システムにより、安心して手術を受けられる体制が整う。



受付カウンターでは笑顔のスタッフに迎えられる。



見学にやってきた方々も入って記念撮影。クリニックのスタッフは、前列右から小山美弥子先生、河野麻子先生、青井院長、塚田智子さん、松浦志保さん。

あいをしていくつもりでやっています。5年後、10年後にも「ありがとう」と言われるような診療を目指していきたいですね」

だからこそ、15年の治療保証も提示できるのだろう。自費診療の補綴物が長持ちしなかったり、再度作り直しが必要になった場合、患者がきちんと定期検診などの約束事を守っている場合に限り、長期の保証を行っている。

定期検診でのメンテナンス、そしてライフスタイルの改善、歯磨きの方法など、患者自身の意識も高くないと理想的な歯科治療は実現しない。歯科治療の難しいところである。「理想的な治療計画を提案した上で、妥協プランも用意します。患者さんのニーズを探り出し、パーソナルに対応することで、より良い歯科治療が実現すると考えています」